

Forum

米国心臓血管麻酔学会 (SCA) に参加して

1992年の SCA 総会はマサチューセッツ州ボストンで開かれた。総会の会場はボストン、シェルトンホテルに隣接したコンベンションセンターでその規模の大きさには驚かされた。ここ数年間の SCA 総会の中でも特に大きな会場だった。大きく広い会場でも特別講演や、教育講演にはたくさんの聴衆が集まっており、全米の中でも特にこのボストン地域には麻酔科医の数が多いのかと思われた。

今回の SCA の1つのハイライトは心臓大血管手術後のペインマネジメントについての5つの講演であった。硬膜外ブロックについての Dr. Ferrante の講演では投与するオピオイドが脂溶性（フェンタニル）の場合と水溶性（モルヒネ）の場合に分けてレビューされていた。北大の ICU ではフェンタニルの持続硬膜外投与を行っており、その有用性について再確認できた。胸骨正中切開の患者で従来あまり術後の疼痛管理が行われてこなかったのは肋間の開胸例に比較して、

手術中のオピオイドの使用量が多いからであり本来は PCA pump 等による十分な疼痛管理が重要であるとする Dr. Rauck の講演は大変参考になった。周術期の虚血性病変は主に術後に起こっており、術後の疼痛管理、ストレスの軽減が周術期死亡率の低下に重要であるとする Dr. Mangano (UCSF) の論文を思い起こす必要がある。

ジェットラグのため総会第1日目は二人とも居眠りをこらえられず、米国の学会（特に東海岸）には1日早めの出発をしたいものだと思うのだった。特に SCA の場合、第1日目はリフレッシュャーコースであり、ぜひ参加しておきたいプログラムになっている。私達の発表は石川は口演、横田はポスターセッションであったがいくつかの質問にも無事答える事ができ北大からの代表(?)としての責務を果たしたのだった。

(北海道大学医学部麻酔科

横田 祥, 石川岳彦)